

これからの地域づくりを考える
市民検討会議ワークショップ
多摩区 開催結果概要

🕒開催日時 2018(平成30)年9月8日(土) 13:30~16:40

📍開催場所 多摩区役所11階会議室

👥参加者 30名 他26名(事務局、コンサルタント、傍聴者等)

📋内容 開会あいさつ 中村市民文化局コミュニティ推進部担当部長

ワークショップの目的と進め方

グループワーク

- ・テーマ1 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を出し合おう
- ・テーマ2 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を実現させるためのアイデアを出し合おう

グループワークの発表

閉会あいさつ 石本多摩区長

🗨️出された主な意見

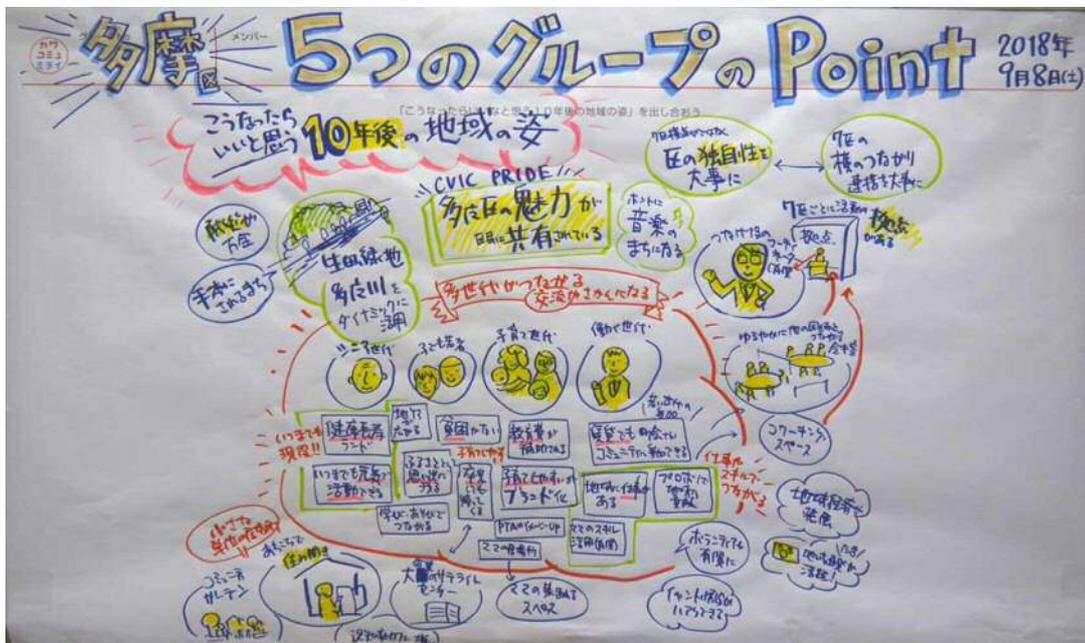
- ・多摩区の魅力が区民に共有されている(Civic Pride)
- ・多世代がつながり、交流がさかんになるまちへ
- ・若い世代が戻ってきたいまち(好きなことがやれる場があること、小さな単位の居場所)
- ・仕事やスキルでつながるまち
- ・7区ごとに活動の拠点があり、つなぎ役のコーディネーター(有償)が必要では
- ・7区横並びではなく、区の独自性を大事にしつつ、7区横のつながりも大事に
- ・生田緑地や多摩川をダイナミックに活用(たまフェスなど)
- ・地域経済の発展、地域通貨の活用
- ・こども文化センターを市民活動の拠点にして、市民自治をつなげる
- ・社会的マイノリティが安心して住める地域に。さまざまなケアを





市民検討会議ワークショップ（多摩区）のまとめ

5つのグループのPoint



全グループの共有の話題として、**多摩区の魅力をみんなで共有**でき、子どもにとって故郷の思い出があり学びにつながり、区民全体でシビックプライドが醸成されていることが「こうなったらいいと思う 10年後の地域の姿」として挙げられた。中でも、区の自然資源として生田緑地や多摩川がもっとダイナミックに活用されていることや、本当の意味で「音楽のまち」になっていることなどが、テーマとして挙げられた。

7区横並びではなく**区の独自性を大切に**すると共に、7区同士が横のつながりをもって、それぞれが何をしているかを把握することも大切であるという意見もあった。

また、シニア世代、子どもや若者、子育て世代から働く世代まで、**多世代のつながりや交流が盛んになる居場所やしくみづくり**について意見が多数出た。

シニアはいつまでも現役で元気に活動できることを、子育てママは地域に居場所があり、地域で自分のスキルを活用できる機会や仕事が地域にある将来像が描かれた。子どもには貧困がなく、教育費の補助や子育てしやすいブランドがあるまちになってほしいということ。働く世代は仕事やスキルを活かして地域とつながるプロボノのような機会があることなどが挙げられた。また、賃貸住宅にいと町内会・自治会には入れないという意見もあり、賃貸でも地域に参加できることも大事という意見もあった。

このように、地域に様々な人々の経験やスキルを生かすことで、地域の様々な世代がつながり、活躍できる場があることがあげられた。

これらの実現に向けたアイデアとして、**地域レベル**では、空き家や空き部屋の活用、住み開きやコミュニティ・ガーデンなどの民間の資源の活用等を通じて、小さな単位で地域の居場所があることが重要視された。また、現在も使われている「地域通貨たま」

の活用を通して地域参加が促され、地域でのお金の循環が進み、地域経済の発展につながっていくというアイデアも出された。

また、**区域レベル**では、団体などが活動に利用し交流できる拠点（コワーキングスペース等）があることや、仕事やスキルを地域の課題とつなげる有償のコーディネーターの必要性が提案された。そのような場として、企業のサテライトセンターのような民間の機能の活用の可能性が挙げられた。

「こうなったらいいなと思う 10 年後の地域の姿」を出し合おう

多摩区の魅力が区民に共有されている（シビックプライド）

- 生田緑地・多摩川をダイナミックに活用
 - 防災が万全
 - 手本にされるまち
- 7区横並びではなく、区の独自性を大事に
 - ↓
- 7区の横のつながり・連携を大事に
 - それぞれが何をしているかを把握しつつ、各区が独自性を持っている
 - 独自性と連携のバランスが大事
- 本当に音楽のまちになる

多世代のつながり・交流が盛んになる

- シニア世代
 - いつまでも現役！
 - 健康長寿ランド
 - いつまでも元気で活動できる
 - 地域包括ケアが広がる
- 子ども・若者
 - ふるさととして思い出に残る
 - 卒業しても帰ってくる
 - 大企業のサテライトセンター
 - 学び・遊びでつながる
 - 貧困がない →子育てしやすい
- 子育て世代

- 教育費が補助される
- 「子育てしやすい」がブランド化
- PTA のイメージアップ
- ママの居場所
 - ママの集まるスペース

○働く世代

- 賃貸でも町会など、コミュニティに参加できる（若者世代の参加）
- 仕事やスキルでつながる
 - 地域に仕事がある
 - プロボノで地域に貢献
 - ママのスキル活用（有償）

地域に仕事がある

- 7区ごとに活動の拠点がある
- ゆるやかに他の団体とつながる会議
 - コワーキングスペース
 - 仕切りがない会議室で、他のテーブルがやっている議論が聞こえてくることによって、つながるきっかけとなる場所貸し
- つなげ役のコーディネーター（有償）
- コワーキングスペース
- 地域経済が発展
- 地域通過「たま」が活躍！
- ボランティアも有償に

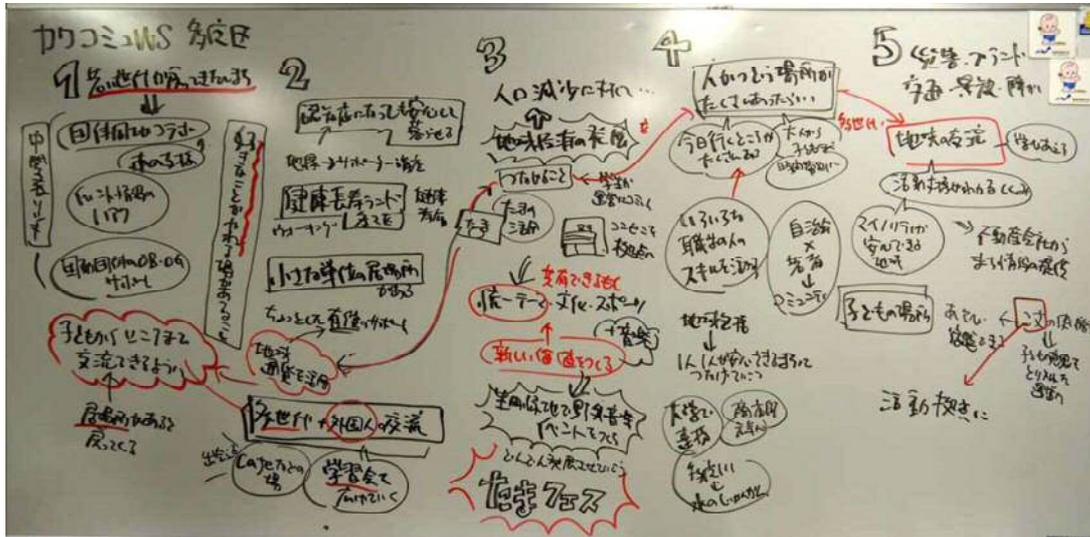
小さな単位の居場所

- あちこちで住み開き
- コミュニティガーデン

その他

- イベント情報が把握できる
- 認知症カフェが増えている

グループ発表



1 グループ

- 若い世代が戻ってきたいまち
→もっと積極的にまちのコミュニティに戻ってきたいまち
- ↓ そのためには
- 団体同士がもっとコラボレーションできている
- 地域のイベント情報を把握している
- ↓
- 中間支援組織
→活動団体がコラボできるような中間支援組織の充実が必要
- 子どもからシニアまで交流できるまち
→居場所があると戻ってくる
- 好きなことをやれる場があること

2 グループ

- 認知症になっても安心して暮らせる

→地縁 →サポーター講座

○健康長寿ランド多摩区

→ウォーキングを通じて健康づくり

→健康寿命

○小さな単位の居場所がある

→ちょっとした有償のサポート

→地域通貨を活用

○多世代+外国人の交流

→外国人にも出会えるカフェなど、交流できる場が必要

→学習会を広げていく

3グループ

○人口減少に対して、地域経済の発展

○つながること

→学生が運営にコミット

○地域通貨「たま」の活用

→子どもにも使ってもらって、学習にもつなげる

○コンビニを拠点に

○共有できる、統一テーマ（文化・スポーツ・音楽）

→新しい価値をつくる

○生田緑地で野外音楽イベントをつくる

○たまフェス

→生田緑地で実績を積んで、どんどん発展させていこう

→向ヶ丘遊園跡地に野外音楽ステージができる

4グループ

○人が集う場所がたくさんあったらいい

→今日行くところがたくさんある

→大人から子どもまで、時間帯別に

- いろいろな職業の人のスキルを生かす
- 自治体×若者 →コミュニティ
- 地域包括ケアシステムの構築
 - 一人一人が安心できるまちにつなげていこう
 - 地域全体で地域の見守りをつくる
- 大学と連携
- 商店街を元気に
- 多摩川を守って、地域内で水の循環

5グループ

- 多世代で地域の交流
 - 学びあえる
- 活動対象が分かるしくみ
 - ボランティアを募集する団体・参加したい人をつなげるしくみが必要
 - 不動産会社から（転入者に）まちの情報を提供
- 子どもの場所
 - 遊び・宿題ができる場所
 - こども文化センターの使い勝手を子どもの意見を取り入れた運営に変えていく
 - こども文化センターを団体の活動拠点としても活用
- 社会的マイノリティが安心できる地域
- （その他）災害、ブランド、交通、景観、障がい者